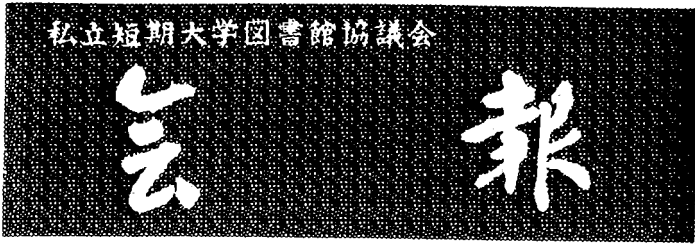


ISSN 0389-4452



Bulletin of Junior College Library Association

編集者：菅原春雄  
発行者：鈴木英二  
発行所：私立短期大学図書館協議会  
〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1  
東京女子大学短期大学図書館内  
電話（0422-45-415 内234）

1987. 3. No. 20

## 第4回全国研修会～書誌研修をテーマに～ 中野サンプラザで開催 94名の参加

期日 昭和61年11月13、14日  
会場 サンプラザ 5F  
主催 本図書館協議会  
テーマ 参考業務と書誌  
参加 94名

この書誌について種類ごと、特色などつかんでおく必要があると基礎的導入部分の概説をした。

日本文学における主要書誌の解題と利用法  
大妻女子大学図書館 安藤 勝氏

### 概況

第1日目吉岡氏の司会のもとに、まず鈴木会長から開会のあいさつがあった。この全国研修会は過去3回マイコンを中心としたものを開催したが、昨年は諸事情で開催できなかった。今年度の研修会テーマは何をするか、役員会等で再三討議を重ね、結局今日のような書誌を中心とした研修会になった。講師陣は最高の人たちである。

レジメを基にして日本文学における主要書誌の解題と利用法について説明された。

2日間有意義にすごしていただきたい。研修後研修会で得た知識を日常活動に、実践に活用していただければ我々は最高の喜びである。勉強は職場だけでなく、横のつながりも必要であるとあいさつされた。

まずレファレンスを行う場合の基本的姿勢を述べられ、質問を受ける場合、レファレンスインタビューが重要で適切な質問把握がなされなければならないと主張され、続いて基本的書誌について解説された。1.どんな参考図書や書誌があるか調べる。2.どんな図書が出版されているか調べる。3.人物、作品、事柄などについて調べる。5.あるテーマにそって雑誌論文、記事を調べる。6.雑誌の内容細目を調べる。7.全集の内容細目を調べる。7.図書(雑誌)の内容について調べる。8.古典作品の事項箇

### 参考業務と書誌 東京大学教授 長沢雅男氏

今日の話は入門的導入部分を中心に述べる。参考業務と書誌をどうとらえるか、書誌はどういう役割を果たすのかから説明された。図書館業務のプロセスの説明から図書館サービスには間接サービスと直接サービスがある。直接サービスをするには、間接サービスをきちんとしておくことが必要である。直接サービスは利用者との接触から閲覧、貸出またレファレンスとかかわりがでてくる。結局は蔵書と利用者を結びつけるもので、その仲介役をするのがレファレンスと書誌である。



そこで利用者のニーズの問題、利用者蔵書と蔵書とを結びつけるシステム化の問題など詳細に説明、つづいてレファレンス機能について、レファレンス業務について、さらに参考業務と書誌とのかかわりについて、書誌について説明され、書誌はどのようなとき、どう使うか、またそれぞ

所を調べる。9.古典作品の所蔵館を調べる。10.詩歌について調べる。11.国語に関して調べる。それぞれの事項についてのレファレンスツール（書誌類）の種類と利用法について詳細に解説された。

#### 英米文学における主要書誌の解題と利用法

立教大学図書館 牛崎 進氏

レジメを基にして、第一に、利用者の情報要求の流れとレファレンスのかかわりについて、図表を使って説明された。質問者の要求には、所在調査型、文献調査型、事実調査型に大別できるとし、各々のプロセスについて解説され、つづいて具体的英米文学における書誌類について自館にある資料をスライドによって各々に詳細に説明された。主要な総合的書誌、蔵書目録、総合目録、索引誌、英米文学における主要書誌、書誌、索引の一般的なもの、とくに英文学、アメリカ文学、書誌専門的なもの、比較文学、個人書誌、専門事典、等につて説明、

第2日目午前中は第1日目の午後に行われた講義に基づいてそれぞれ演習課題が課され、各自机上に準備された書誌類を使って調べた。

演習課題を参考までに例示すれば

##### 日本文学関係

- 1 貝原益軒の「女大学」と「女大学教文庫」の版本を見たいが、その所蔵館を知りたい。また翻刻見たいが、何かの全集に収録されていないか
- 2 八文字屋本についての書誌解題はなにか。
- 3 小僧次郎吉について記されている近世の文献を知りたい。
- 4 近世の「美香幣乃誉路臂」は誰の作品か、またこの作品を読みたいが、何かの全集に収録されていないか。
- 5 雨月物語と中国文学との影響関係について書かれた文献にはどんなものがあるか知りたい。
- 6 小池清治「天草本伊曾保物語…」の正式論文名（…が不明）と掲載雑誌名を知りたい。
- 7（戦前）詩集培養士（麴麴詩集）に北川冬彦がある文を書いているが、そのタイトルを知りたい。
- 8 岡本かの子の著作目録を見たいがどこかに出てないか。
- 9 近世に書かれた「燭夜文庫」の読み方と、活字本は出ていないかを知りたい。

##### 英米文学関係

- 1 D.H. ロレンスのチャタレー夫人の恋人に関して日本語で書かれた資料を集めたい。どうすればよいか。
- 2 ハローインについて調べたい。
- 3 ジョンソン博士の略歴を知りたい。
- 4 Little house on the prairie とかいう書名の翻訳者は誰ですか。
- 5 「英米文学紀要」は、どこの大学の発行ですか。

午後はこれらの課題について各グループ代表より調査発表され、各講師がそれについて補足的説明が行われた。また演習にあたっての講評があり、皆さん熱心に勉強され、これを機会にさらに充実されますようにと激励された。終りに主催者側から今回の研修についての感想について書くようにと指示があり、講師について、内容について、今後の研修の在り方等について書いてもらった。

##### 書誌作成の意義

国学院大学栃木短大図書館長

片山 喜八郎氏

まず図書館員の姿勢について、プロとは何か、学者風の考え方も必要であるが、海外と日本の風土習慣もちがいは実践の仕事ができるかどうかということである。

短大生においても既成な書誌により立派な書誌を作成している。既成書誌にも欠落部分があるので注意する必要がある。書誌の作成はやる気があればできる。〈のりとハサミ〉があれば自館における書誌作成の実践例を紹介しながら説明された。所蔵している資料（静）を活用して（動）いくことが必要である。書誌作成の紹介数々あるが、○近代日本文学作家総覧 ○全集叢書総覧 などある。

書誌作成に便利なマイコンの活用、これはすばらしい武器になる。この例として「何かお捜しですか」があり、現在すすめている。未採録もあるかもしれない。皆さんのご協力をお願いしたい。

また図書館員の自覚について話され、レファレンスについても、質問者にどう手立てするか、考える。どういう道をたどればよいか思考することが必要である。

今何をなすべきか、それから発しなければならない。国学院栃木では次のものを現在編成している。

##### 全集叢書索引

日本近代文学作家論の書誌

明治以降日本文学研究講座類索引

全集の月報

2日間の研修会如何でしたか。大変なスケジュールでさぞおつかれになったかと思えます。しかしそれなりに得ることが多かったのではないのでしょうか。そうだとすると、この研修会は大成功だったと思えます。皆さんのお顔拝見しますと目が輝いております。今後短大図書館もキカイ化の歩みを早くするのではないか。しかし図書館の業務あるいは図書館というひとつの機能を十分に発揮

するには、やはりその根底には人がいるということ、ぜひわすれないでほしい。片山先生のお話を感動をもって聞いたと思う。皆さんの背中に宿題をせおわたのではないか、職場にいる全期間を通じてその課題に答えを出していかなければならない。そういうことを痛切に感じた。職場に戻られたならば、せいっぱいの活動をしていただきたい。2日間おつかれさまでした。なお来年度以降も皆さんに役立つような研修会を開催したい。

参考(図書館雑誌が81.1, 短大図書館研究7)

### 参 加 者 の 声

A氏

最近の図書館の研修会というのは、機械化ということに重点を置かれている中で、今回は、私の勤めている図書館でも、すぐ実践できる内容でしたので、期待して参加しました。しかし実際演習などやってみると、なかなかむづかしいもので、ふだん自分がレファレンスに関していかに、いいかげんなことをしているのかという気がしてきました。今は何んとなくわかっていような感じがしますが、同じようなことを学校でやろうと思っても、この質問だったら、この書誌を見ればよいというように、簡単にはできないと思えます。しかし今まで百科事典だけにたよっていたが、これからはもっと深く多くの資料で調べていきたいと思えます。

B氏

実践的な演習であったので、とても役に立った。どのような質問に対してどのようなツールを使っていくか、また質問を分析することの意義が何んとなくわかった。通常レファレンスを担当していない者でも、ある程度の質問に回答する自信がついたように思う。また資料として提供していただいた書誌類のリストも自館のレファレンス回答能力を計る目安になると思う。不足している資料は補い、レファレンス能力のレベルアップにつとめたいと思った。これからもより実践的な研修会を開催してくれることを望みたい。

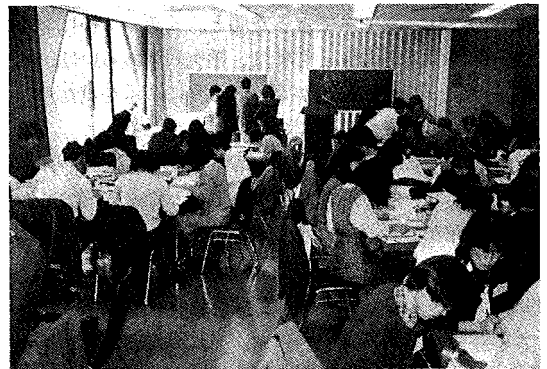
C氏

書誌についてほとんど知りませんでした。今回の研修会である程度知ることができました。本学図書館の書誌のないことも反省させられました。帰りましたら、さっそく購入したいと思います。第2日目の演習についても、直接書誌類を使いながらの実践的研修で、とても役に立ちました。今後ともこのような研修会を数多く持っていていただければと思います。

D氏

昨年まで4年制大学の方で勤めていました。4年制の方では私立大学図書館協会の各種研修会がありますが、今回のような「参考業務と書誌」というテーマでの研修会は、私の知る限りありませんでした。今回のテーマを拝見した時には是非参加したいと思いました。図書館に書誌はあっても、参考業務係という係を特別に設ける人的余裕などもありませんので、各業務の合間に、質問に来たら、レファレンスサービスをするという程度のおそまつなものです。館員の間で研修会をしようという声は、あっても実際に行ったことは、残念ながらありません。

ですから今回の研修は非常に役立ちました。日頃整理業務等に追われているだけでなく、学生、教員の利用を高めるためにも館員が、時間がない、人手がないと甘えるだけでなく、もっと積極的に自己研修を行い、こちらからも働きかけていかなければならないと、今回の講義を聞いて痛感している次第です。各講師から具体的な例をあげていただいたのお話ですし、実際に演習も行うことができましたので、とても有意義でわかりやすかったと感謝しています。世話役の皆様方も大変だったと思いますが、次回も期待しておりますので、どうぞよろしく願います。



E氏

私も年2〜3回、2年生のゼミ学生に対して、90分程度の文献探索ガイダンスをやります。最初の60分は図書館はどんなものか、書誌にはどんな種類があるかを説明します。そして最後の30分は今日のような問題を課して、実際に図書館に来てもらってグループで書誌をひくということをしています。時間の関係でこの問題のときには、この書誌を使ってというヒント、指示を出してやっています。今日は生徒側の立場になって実際にやってみようという問題の種類にもよりますが、なかなか大変です。

3時間かけてこれだけしかやれないのかということ、あらためて知りました。学生に30分の演習で一つの書誌の使い方を知れというのが、かなり無理な要求なのかと思ったりもしています。今後の利用指導ではもっと気持ちをゆったりともち、図書館には物事を調らべることで

きるToalがあるという印象を与えることに最大の努力をしようと思っています。改めて書誌にふれていただいてありがとうございます。

F氏

レファレンス係として実践を積んだ先生方からのお話だったので、実感がこもってよかったと思う。演習では、限られた資料ではあったが、今までに見たことはあっても、ひいたことのないものを実際に利用できて、大いに参考になった。レファレンスツールを使いこなすことと同時に、利用者が何を聞こうとしているかを適確につかむレファレンス・インタビューの大切さを感じている。次の機会には、このあたりのテクニックなどについても伺いたいと思う。また他の分野についても、このような会があればよい。

## ＜短大図書館めぐり 第23回＞

1986年10月、待望の新図書館が完成した。

鉄筋コンクリート地下1階地上4階建延床面積7,645㎡のうち2階、3階部分2,100㎡、蔵書収容能力16万冊、座席数203席でその中には、和風コーナー（黎明）の座椅子12名、堀ゴツツ12名が含まれている。従来利用されづらい図書館から脱皮しようと、この建物をリム（LIM-Live Information Media）と名づけ、利用者が親しみをもち、多くの人に受け入れてもらえるよう施設等の面で考慮をした。

特色としての第一は、図書館が名実ともに大学の中心として存在することになったことである。これまでのように、講義が中心でもなく、学生の自学、自習の場が中心にすえられている。学生は、直接授業に関係ないことであっても、図書館で自由に調べることができ、メディアの使用も自由になった。

第二は、リム内には、教室というものがなく、あるのはただパフォーマンスできる空間と、メディア操作のための作業空間であり、そこでは、学生同士あるいは、同窓生、コミュニティ住民がつどい気軽に展示を見たり、鑑賞を行い、劇を作る表現の場が用意されている。

第三に、異質な空間（食堂・喫茶が図書館の向いにある）が同居し、隣りあわせになっていることである。旧来の図書館には、静粛にして下さいという表示があったが、リム内の図書館は、静かなところと動的なところが区分されており、作業的な空間を生みだしている。

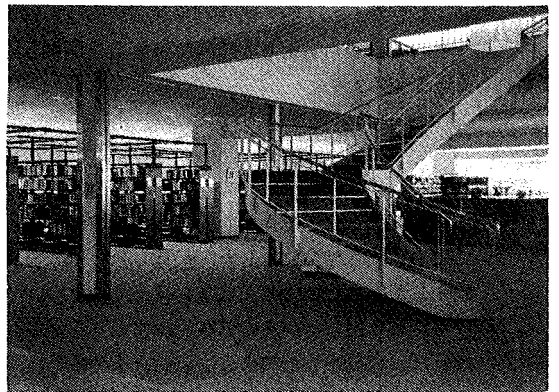
それに呼応させて、オーディオ・ビデオコーナー、食堂というような異質な空間を積極的に近づけている。

## 静修短期大学図書館

このような組み合わせは、単なる学習型の図書館ではなく、人間の生活や生涯の中での位置づけをもった図書館を作りたいという願いでもある。保管したり、分類するだけにウエイトを置かず、さりげない形で日常生活の中で図書が生きていけるように配慮していきたい。

なお、開館してから4ヶ月を経過したが、入館者は、旧図書館の時より3倍位多くなり、帯出冊数も4倍位に伸びており、学内の動線を、生理的欲求とメディアの力で変えつつあると思う。

又、ブックディテクションの導入により、2階は出入口、3階は出口のみを設置して、利用者が、気軽な気持ちで出入りできるようになり、ショッピング的な気持ちで図書館へ入ることができるようになったことが、利用者が本に近づいた要因になっていると思う。（増淵 忠雄）



## 地区活動報告

### <北海道地区>

今年度の当地区の研修会ならびに講演会は、昨年10月31日(金)、札幌市内のホテル・アカレアを会場として開催した。

午前の研修会は、最近急速にすすんでいる図書館業務の電算化に関心がよせられていることもあって、今回はすでにコンピュータを導入している小樽女子短大(新谷良文氏)をはじめ、札幌大谷短大(佐々木純子氏)北海道女子短大(福岡充節氏)および静修短大(鳴海栄二氏)の各館からの事例発表がおこなわれた。

ついでこれらの報告について実施を検討中の図書館からの質疑など熱心な研修がおこなわれた。

また、午後は、東洋大学教授の石井敦氏による「今日における図書館史研究の意義」について講演があり、これには午前の研修会にひきつづいて加盟館のほか、主として市内の公共・大学図書館からも参加があり、2時間にわたって熱心に耳を傾けていた。

なお、この日の講演については年内に発行が予定されている『北の文庫』(第12号)に全容が掲載されることになっている。(R記)

### <東北地区>

前会報に、東北地区では61年10月末に「研修会」開催予定と予告したが「私立短大図書館協議会」の全国研修会が11月中旬開催と発表されたので、参加者の便宜を考え、62年1月に開催時期を変更し、下記の通り開催した。

1. 期日 62年1月24日
2. 会場 仙台市中央公民館セミナー室
3. 研修テーマ “短期大学図書館における利用指導”
4. 講師 大阪女学院短期大学教授 丸本郁子
5. 参加者 東北地区加盟館の他に、未加盟館2館の参加があった。

現在、東北地区の各短大図書館ではそれぞれ独自の立場から、毎年の新入学生への「オリエンテーション」をふくめて、「指用指導」を実施しているが、やはり、「利用指導」は、現代にもっとも肝要な情報処理能力の育成であり、現在の短期大学に在学中の学生の利用状況の実態からみると、必須のものと考えられる。

(1)学生が自主的に学習を行なうことが出来、(2)授業の質を高め、(3)卒業後も自分に必要な知識を獲得する技術を身につけさせるには、どうしても、系統的な「利用指導」が必要である。

今回の研修会講師丸本郁子氏は長年にわたる研究実践と、特に58年度以来、日本図書館協会短大部主催の「短大図書館夏季利用指導ワークショップ」4回の指導経験を踏まえての研修指導を実施されたので、講師・受講者ともども、時間を超越しての研修会となり、まことに有意義で実践的な研修会を持つことができた。(中村)

### <関東・甲信越地区>

活動報告

#### A 幹事会

第3回幹事会

昭和61年9月18日

目白学園図書館

議題：国立国会図書館の見学について  
次年度の合宿研修会について  
加盟館の拡充について

#### B 国立国会図書館新館見学会

昭和61年10月16日 午後2時～4時

申込者は72名あったが定員の関係で63名の参加、3班に分かれ、約2時間に渡って丁寧に案内して頂いた。

#### C 会勢(昭62.2.5現在)

81館から6館増の87館(新規加盟6館、大学昇格の為退会1館)

### <東海北陸地区>

初めて開かれた交流会について

東海北陸地区図書館協議会の総大会は、第8回を重ねている。本年度は、会場校として富山女子短期大学が推された。総大会を運営するための年初拡大幹事会で、会場校から、「せっかく遠方まで来られるので、翌日の見学会を含め2日間、そして初日の夜に交流会を開いてはどうか」と提案され、厚意を受けることになった。

1986年10月2日、初日の講演会・研究会が成功裡に終り、ついで席を変へ午後6時から8時まで富山電気ビル宴会場において、初めて第1回交流会が開かれた。参加者は、20館延30名に及んだ。

開会に先立ち、各館相互の情報交換が提案により、いくつかが為されたが、主たるものは冷のごとくであった。

#### 1. 図書貸出冊数について

02冊—8校 03冊—8校 04冊—なし 05冊—3校 0無制限—1校

#### 2. 図書館へのコンピュータ・システム導入について

○導入している—1枚 ○具体的に検討している—2

## 校 ○未定—17校

あらためて懇親会に移り、事務局の大垣女子短期大学木村室長、会場校の富山女子短期大学植村館長の挨拶があり、引きつづき金城短期大学斉藤館長の音頭で乾杯をした後、各テーブル毎に和やかに歓談が進んだ。新規加盟館3校5名が初参加され、和やかなうちにも各館の情報交流がなされ、有意義なものであった。

宴たけなわに及んで女声合唱等も披露され、名残り惜しいうちに交流会の幕を閉じた。富山女子短期大学の井黒さんをはじめ司書の方々の暖かい心遣いにより参加者全員、楽しいひとときを過ごすことができた。

## &lt;近畿地区&gt;

## &lt;第16回研修会&gt;

日 時：昭和61年12月13日（土） 14：30-16：30

場 所：帝塚山短期大学図書館

参加者：加盟館 26館 54名

未加盟館 3館 3名

合 計 29館 57名

講 演 「これからの書誌」

講 演 者 谷沢永一氏（関西大学教授）

## &lt;図書館見学&gt;

## 1 園田学園女子大学図書部

日 時：昭和61年7月24日（木） 14：00-16：00

参加者：加盟館： 39館 77名

未加盟館： 8館 14名

合 計 47館 91名

## 2 羽衣学園短期大学図書館

日 時：昭和61年10月31日（金） 14：00-16：00

参加者：加盟者 30館 49名

未加盟館 7館 13名

合 計 37館 62名

## &lt;近畿地区私立短期大学雑誌目録 改訂版編集委員会&gt;

打ち合せ会：昭和61年6月14日（土） 14：00-18：00

第 1 回： “ 10月14日（土） 14：00-19：00

第 2 回： “ 11月15日（土） 14：00-20：00

## &lt;幹事会&gt;

第4回：昭和61年7月24日（木） 17：00-19：00

第5回： “ 10月31日（金） 17：00-19：00

第6回： “ 11月10日（月） 14：00-18：00

## &lt;中国・四国地区&gt;

中・四国地区理事 樋口日出雄

本協議会も発展を続けているが、中・四国地区におい

ても、22校という先年度より引き継いだ加盟数に加えて、一校（呉女子短期大学—図書館長 板垣 綏氏）の参加を得たことは悦ばしい。

中・四国路は不況風の通り路となって沈滞気味だが、地区内の連帯もなかなか念うに任せない。

次年度は先送りとなった総会の開催をはじめ、地区の加盟校が一堂に会して協議の時をもちたい。

## &lt;九州地区&gt;

## &lt;新加盟館紹介&gt; ○沖縄女子短期大学

九州地区加盟館28館(61.4.24現在)

## &lt;昭和61年度総会および研修会&gt;

日 時：昭和61年4月24日（木） 10：00～17：30

場所所：九州会館ガーデンパレス

参加者：17館24名

## &lt;総 会&gt;

## 1 事業報告

1) 次期会長館の選出 2) 当番館の選出 3) 研修会のもち方 4) ニュースレターについて 5) 雑誌総目録の改訂版について

## 2 昭和60年度決算報告 同監査報告

## 3 昭和61年度予算案審議

## 4 承合事項

雑誌・紀要・新聞等の収集・保存について、特に予算枠および収納スペース等の関連。

## 5 協議事項

九州地区大学図書館協議会への要望について

○小規模館の加盟 ○資料の相互利用について

## &lt;研 修 会&gt;

## 研究発表

## 1 短期大学図書館における利用指導のとりくみ

西南女学院短期大学 村上博子（主任司書）

## 2 NCR本版案について—動向と問題点—

活水女子短期大学 遠山 潤（司書）

## 3 コンピュータ導入その後

純心女子短期大学 岩崎由紀子（司書）

## 「日本十進分類法新訂7版—8版比較表」

—刊行のうちあけばなし—

東筑紫短期大学図書館 森田 清恵

北九州司書の会では、このたび標記「比較表」の改訂版を刊行しました。初版同様、私立短期大学図書館協議会が発行を引き受けてくださり、会員一同感謝しています。今回はご依頼により、私たちの会がどうしてこの「比較表」を刊行することができたのかを、お話ししましょう。

10年前に生まれたこの会では、6年間もかけて、1983年にやっと初版刊行を達成しました。その苦労にもめげず、さらに手を加えて昨年の夏、その改訂版を出すことができました。「地方都市での、自主グループのバイタリティはなに？」と尋ねられますが、それは、この会に講師格のリーダーがいなかったことではないかと思えます。教えるだけの人、学ぶだけの人がなく、お互いに学び合うので、一人一人が大切なメンバーです。しかも、みんな有能な司書になりたい、自分たちの図書館を良くしたいと願っています。その上、職場を越えて、図書館界にお役に立つことができればという、ちょっぴり欲ばりな気持ちもあります。これらが、この「比較表」刊行の原動力となりました。総勢32名（10館）、9年半を費やした気

の長い手作業でした。しかも、最後までみんなの心が一つになって行動できたのは、すべての会員がこの作業に参加してきたからでしょう。このようなこまかい作業を大勢で分担すると、能率の悪い場合もありますが、会の育成のために、作業を全員で分担し、仕上るとお互いに交換して見直しました。これにより、多数の意見を吸収しながら、作業上の精粗のばらつきを減らし、均質化を計ることができました。苦しい体験を共有してきたので、この「比較表」が完成した時、「やったあ!!」という充実感を、すべての会員が共に味わうことができました。幸い、この「比較表」は使いやすいと、ほめていただきました。もしかしたら、私たちも、図書館界に小さな役割を果たすことができたのかもしれない。

一人ではできないけれど、グループだからこそできた、という喜びを分かち合っています。そして、今、新人類の会員たちが、この体験を通して得た実力で、何かをはじめようとしています。

## 言語学・英語学関係基本文献目録

東洋英和学院短期大学図書館 宮田 伸子

この書誌は、内外の言語学・英語学関係の文献の中から短期大学、大学の学生並びに大学院生の勉学に役立つと思われるものを選んで編集したものである。対象とした文献は19世紀から現代に至るまでのものであり、1986年6月までに刊行されたものを収録した。文献はおもに日本語と英語で書かれた図書が中心であるが、ドイツ語、フランス語及び若干のその他の言語によるものも含む。

作成にあたって特に留意した点は、原著とその翻訳著がある場合にはできる限り調査して両者を明らかにし、配列上も常に並列させたことである。なおその場合、原著が論文であればその論文名と判明する限りの掲載誌名を示した。この書誌が生まれる母体となったのは、昭和41年、当時の館員によって作成された「英語英文学関係基本図書目録」（昭和41年度日短協研修会報告）であるが、その編集目的は短期大学の図書館が収集すべき英語英文学関係の困書を示すことであった。昭和56年、単に充実した目録を作成してはという動機のもとに、一つの書誌を作る目的で、館員4名が当時館長で英文科の新富英雄教授と共に日常勤務の傍ら作業に着手した。

テーマも、当時は言語学ブームで言語に関する文献が

数多く出版されていたこと、又、新富教授の専門が英語学であったことなどから「言語学・英語学関係」に絞られた。以来今回の刊行まで数年余を経過したことになるが、作業に一応終止符を打つことになった。

このように多大な時間を費したということは言語学、英語学という比較的大きな分野を取り扱ったためもあるが、書誌作成という作業が想像以上に時間と根気とを必要とする仕事であるということであろう。この書誌がひとりでも多くの方にご利用頂けたらと願っている。

構成は次の26の分野と辞典編および書名、著者名の各索引からなる。

言語学一般	英語学一般	英語史	アメリカ英語
方言	聖書と英語	言語学史	英語学史
比較言語	音声・音韻論	統語論	意味論
語に関するもの	文体論	翻訳論	記号論
語学と韻律論	言語心理学	言語習得	社会言語学
辞書論	言語文化	英語教育	英学
記念論文集	書誌	その他	
総収録文献数 4027 頁数約 240 ページ			

## ＜ 事 務 局 報 告 ＞

### △ 会 勢 昭和62年3月現在

北 海 道	17	近 畿	59
東 北	13	中 ・ 四 国	24
関 東 甲 信 越	87	九 州	29
東 海 ・ 北 陸	36	合 計	265

### △ 新加盟館紹介

#### 関東・甲信越地区＜6＞

##### ○女子栄養大学短期大学図書館

〒170 東京都豊島区駒込3-24-3  
TEL 03-918-6511

##### ○日本大学農獣医学部図書館藤沢分室

〒252 神奈川県藤沢市亀井野1866  
TEL 0466-81-6241

##### ○日本女子体育大学附属図書館

〒157 東京都世田谷区北烏山8-19-1  
TEL 03-300-2251

##### ○松蔭女子短期大学図書館

〒243-101 神奈川県厚木市森の里若宮9-1  
TEL 0462-47-1511

##### ○東海大学医療技術短期大学図書館

〒259-12 神奈川県平塚市南金目143  
TEL 0463-58-1211

##### ○横浜女子短期大学図書館

〒233 神奈川県横浜市南区港南台4-4-5  
TEL 045-833-7100

#### 中・四国地区＜1＞

##### ○呉女子短期大学図書館

〒737 広島県呉市阿賀南2-10-3  
TEL 0823-74-5511

#### ＜退 会＞

##### ○日本赤十字中央女子短期大学図書館

(昭和61年度より日本赤十字看護大学となり短期大学が廃止されたため)

### ＜地区理事の変更＞

#### 九州地区協議会

(前) 出口セイ子氏(純心短期大学図書館)

→ (新) 平常三氏(鹿児島短期大学図書館)

### △ NDC新訂7版-8版比較表の改訂版でる。

北九州司書の会が、1983年初版を出し、再検討し作成したものである。菊判114P定価1,000円(〒共)

連絡 注文先 本協議会事務局並びに下記へ

〒803 北九州市小倉北区井堀1-3-2

西南女学院短大図書館内

北九州司書の会代表 村上 博子

TEL 0903-561-2631 内313

### △ 言語学・英語学関係基本文献目録

東洋英和女学院短大図書館員編集による標記目録が、3月中に刊行される。内容は単行本を中心に、国内及び英語中心の文献約3600タイトルで、収録は19世紀から現在に至るまでのものである。B5判で約240ページの予定である。発行は本協議会で、問合せは事務局まで。

### △ 短期大学図書館研究第7号

3月発行予定で現在編集中のこと。

第8号原稿は一応9月末日を予定している。

会員校諸氏の積極的な投稿を期待しているのでよろしく。

### △ 第21期JLA施設会員選出評議員

私立短大より3名

北海道武蔵女子短期大学図書館 坂本龍三氏

奈良佐保女学院短期大学図書館 仲井道子氏

活水女子短期大学図書館 遠山 潤氏

### △ 昭和62年度スケジュール

全国理事会	62.5.28 (木) 午後	} 予定
総・大会	62.5.29 (金) 午後	
全国研修会	未 定	

### △ 会 議

本部役員会 第4回

▽昭和61年7月31日(木) 日本図書館協会

報告事項(会報19号発行について、その他)

協議事項

1. 昭和61年度短期大学図書館全国研修会の件(継続)
2. 本部役員会の任務分担の件(継続)
3. 昭和61年度短大図書館員名簿の件
4. その他

第5回

▽昭和61年10月20日(月) 日本図書館協会

報告事項



## 協議事項

1. 昭和61年度短期大学図書館全国研修会運営の件
2. 短期大学図書館研究No.7の件（継続）
3. 本部役員会の運営体制・任務分担の件（継続）
4. その他

## 第6回

▽昭和62年1月28日（水）東京女子大学短大図書館

## 報告事項

## 協議事項

1. 短期大学図書館研究No.7の件
2. 本部役員会の運営体制、任務分担の件
3. J L A 評議員、理事の件
4. その他

## 第7回

▽昭和62年2月23日（月） 日本図書館協会

## 報告事項

1. J L A 評議員選挙結果、常務理事会。その他

## 協議事項

1. 短期大学図書館研究第7号の件  
現在最終段階で印刷中とのこと、3月中刊行される広告の件について
2. 本部役員会の運営体制と任務分担の件（継続）  
運営体制はまず組織の確立が必要である。その上に入選、現行規約での適応はどうか。役割分担は当面、研修会、会報、紅票、出版、事務局、組織担当が考えられる。
3. 言語学、英語学関係基本文献目録の出版について  
東洋英和女学院短大図書館編集による目録が3月中に刊行される。発行は本協議会とする。  
次回役員会 62.3.12

## &lt; 雑 報 &gt;

J L A 短大図書館部会で第4回図書館利用指導ワークショップ報告書を作成した。(86年8月28—29日実施)

81P 26cm 1,000円

申込・問合せ

〒181 東京都三鷹市牟礼4-3-1  
東京女子大学短大図書館内  
J L A 短大図書館部会事務局

なお1985～86年版は現在編集中、今後も継続して出版するので、貴大学(短大)で発行された紀要類1部を下記へ寄贈していただきたいとのこと

紀要類送付先

〒362 埼玉県上尾市戸崎1-1  
女子聖学院短期大学林研究室内  
紀要論文索引編集委員会

#### 全国短期大学紀要論文索引'80～'84 6分冊刊行

先に図書館科学会編、埼玉福祉会発行「全国短期大学紀要論文索引」1950—1979が出版され、その続刊を期待していたが、今回図書館科学会編で日本図書センターより1980年から1984年までの5年分の累積索引が刊行された。B5判 1セット 126000円

第1巻	人文科学編	20,000
第2巻	社会科学編	23,000
第3巻	自然科学編	26,000
第4巻	語学文学編	22,000
第5巻	家政学編	23,000
第6巻	執筆者索引	12,000

#### 昭和61年度

全国図書館大会 62.3.19—20, 東京で開催  
テーマ「IFLA東京大会報告と今後の日本図書館の方向」

短大図書館分科会(第3分科会)

テーマ「授業に図書館, 活かそう館員」

—利用指導デモンストレーションの実際—

於: 東京青山会館(おおとり)

期日 62.3.20 午前9.30～12.00

#### 第3回短大図書館関係団体懇談会

3月25日開催於 J L A

〔敢言閑語〕▽早いもので、われらの協議会も、この秋には創立10周年を迎えるわけで、ご同慶の至り。「十年一昔」とか、何らかの記念行事ないし出版を望むや功。▽そして新機構の下で短大図の相互協力を強化し、また機械化を進めるべきか。▽よく図書館は社会の先頭に立って木鐸を打ち鳴らす文化の先達であるべきだという司書殿が多い。これも、ごもっともであるが、その前に奉仕の前提として謙虚に「図書・文献」に明るい番人とし

て働くことが肝要であろう。とくに短大図書館では。▽昨春、私は白内障手術(人工レンズの移植)で2旬ほど入院したが、看護婦さんの勤務のきびしさ、各種の患者に適わしい対応などに敬服した。ナイチンゲール精神?の滲透か、看護教育の訓練のたまものか、信念がこもっていると思われる。▽司書の訓練についてもJ L A 教育部会の諸賢によって抜本的に検討研究してほしいと思う(奎郎)

編集後記 第20号をお届けします。本協議会が発足したのは、昭和52年9月です。今年9月を迎えますと創立10周年になります。会員校の皆様はじめ本部、地区役員校の諸先生のご指導、ご支援で会報20号、短大図書館研究7号の現在が存在するわけです。次号(21号)では何か特集が編まれると思いますが、会員諸氏におかれましても当時の思い出、発足してから今日に至る変化など綴っていただければ幸いと存じます。(すがわら記)